

## No. 2041 大谷山、赤坂山

日時：2014年2月16日(日)

参加：尾崎(L) 嶋原 岡本 右田 小俣 佐々木(記)

小俣さん、うまく帰阪に合わせて参加、右田さん共々初スノーシュー、楽しく行きましょー!

広くなだらかなマキノスキー場には、雪が無くロープトウやリフトもはずされて休止状態。周辺のレストハウスや宿泊施設も閉まっていた物寂しい。ただ、スノーシューのバスツアーや家族連れであちこちの駐車場は、けっこう込み合っている。見上げると山は雪で真っ白、今年は全国的に天候ムラがあるようだが、やはりここは雪の多い地方なのだ。

スキー場左の舗装道を辿ると標識、寒風峠を目指す。先に行く単独行者が踏み後を残してくれているので助かる。程なくしてスノーシューを付ける、小俣さん右田さんも岡本さんの持ってきてくれたシューで完全防備。

寒風・西山林道分岐から寒風峠へ1時間強の登りをこなす。曇り空ではあるが時々射す強い太陽光が眩しい。峠手前から風と樹氷の世界となる。

寒風峠(850m)からの眺めは遮るものが無く、北に赤坂山(823.8m)・南に大谷山(814m)が隣り合わせに連なる全長80Kmにおよぶ高島トレイルの一地点である。素晴らしい眺めだが容赦ない風に早々、大谷山を目指す。

ここからは、スノーシューが楽しい! 雪の波紋を踏みしめて雪原を走るように下り、豆粒程にしか見えない先行者を追うようにして登る。少々硬い雪面にも、足裏の大きな爪がものを云う。



相変わらず吹き飛ばされそうな風の大谷山着、ズンベラボンの頂上。ほぼ同じくらいに15人程のパーティーが我々とは反対方向の林道から着、やはり風に難儀しながら右往左往。

風を避けるような場所を探して樹林帯方向へ下山、ゆっくりと昼食タイム。時間的に赤坂山はあきらめて下山コースを検討する。岡本さん持参のナビと、近くに居たさきほどのパーティーにも聞いて、林道方向へ尾根沿いに直滑降で降りる事に決定。

これが40分程の今日一の急勾配コースであったが、慎重に降り林道分岐へ。真直ぐ進むと西山林道方面、ここを緑ヶ池方面へ(栗柄林道か?)。20分程の下山道分岐でスノーシューをはずし緑ヶ池へは程無い。

ここからは雪の残る車道をけっこう歩く。途中、猟師と会うが鹿が多いらしい、間違われぬよう厳重注意だ!。駐車場着、改めてみると川沿いにはバーベキューの施設や遊び場が多く、夏のキャンプ地としても良いところのようだ。

ここで、嶋原車・岡本車に帰り先別に分かれて分乗、161号線、湖西道路、名神で帰阪解散。尾崎リーダー、ありがとうございました。

<参考タイム>

新大阪 7:00—9:05 マキノスキー場駐車場 9:20—10:00 分岐（寒風、西山林道） 10:10—11:20 寒風峠  
11:25—11:45 大谷山 11:50—12:00（昼食） 12:40—13:20 林道分岐—13:40 下山道分岐—13:50 緑ヶ池  
—14:40 駐車場 14:50—（解散）